

主催者 全国漁港漁場協会 会長 橋本 牧



第71回全国漁港漁場大会の開催にあたり、主催者を代表してご挨拶申し上げます。

未だ完全にウイルスを撲滅することは出来ませんが、全国漁港漁場大会は2度の延期を乗り越え、今日の日を迎えることができました。全国からお集まりいただいた多くの皆さま、心よりの御礼申し上げます。

一つ目はパンデミック、国際紛争、自然災害、或いは地球環境の変動など危機への対応です。世界の社会の中、それらの危機は国境を越えて急速に拡大し、私たちの生活に深刻な影響を及ぼす危険性を秘めています。

私たちは、阪神淡路大震災や東日本大震災の復興を経て、「リスクに対する適応力を持った社会」がどうあるべきか議論を重ね、例えば「防災・減災」や「粘り強い構造物」等の概念を生み出すことができました。

また、水産物の品質と価格を向上させることにより、後継者が育つ力強い漁業を創っていくことも大切です。水産物の輸出拡大、消費動向を踏まえた養殖業の機能強化を進めることも、漁港整備の高度化や生産・流通機能の強化等を重点的に実施してそれを支えるべきと考えます。

本年も、地域毎のプロック協議会などで、長期計画に関しても、様々な議論を行わせていただきます。

また、水産物の品質と価格を向上させることにより、後継者が育つ力強い漁業を創っていくことも大切です。水産物の輸出拡大、消費動向を踏まえた養殖業の機能強化を進めることも、漁港整備の高度化や生産・流通機能の強化等を重点的に実施してそれを支えるべきと考えます。

また、水産物の品質と価格を向上させることにより、後継者が育つ力強い漁業を創っていくことも大切です。水産物の輸出拡大、消費動向を踏まえた養殖業の機能強化を進めることも、漁港整備の高度化や生産・流通機能の強化等を重点的に実施してそれを支えるべきと考えます。

祝辞 農林水産大臣 野村 哲郎



代議：水産庁漁港漁場整備部長 田中 郁也

本日は、3年ぶりの「全国漁港漁場大会」が、全国各地から千名を超える皆様のご参集のもと、盛大に開催されますことを、政府を代表して、心からお祝い申し上げます。

者の皆様におかれましては、漁港・漁場・漁村の整備促進はもとより、資源等の経営コストの上昇、燃油等の減少といった水産業が抱える、様々な課題に積極的に取り組んでいただくとともに、深く敬意を表します。

具体的には、拠点漁港の生産・流通機能の強化を図るとともに、養殖生産拠点の形成に取り組まれます。また、環境変化に適応した漁場生産力の強化を図るとともに、頻発化・激甚化する自然災害への対応力を強化します。

中心とした、地域のきわみや所得と雇用を生み出すことを目指します。今後とも、水産基盤整備に必要な予算の確保と制度の充実を図られるよう努力して参る所存です。全国の関係者の皆さまにおかれましては、引き続きお力添えをいただきますよう、よろしくお祈りを申し上げます。

結びに、本大会の成功と、我が国水産業の益々の発展、並びに本日御出席の皆様方の御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

祝辞 漁港漁場漁村整備促進議員連盟 会長 衛藤 征士郎



第71回全国漁港漁場大会の開催にあたり、漁港漁場漁村整備促進議員連盟の会長として一言お祝いを申し上げます。

ご列席の皆様には、我が国水産業の振興と漁村の発展にご尽力頂いておりますこと、衷心より敬意を表します。また、度重なる強大な台風や豪雨の来襲により、被害を受けられた全国の多くの方々

に心よりお見舞いを申し上げます。さて、我々は、漁港・漁場・漁村の整備を促進して、豊かな漁村社会の構築に寄与することを目的として議員連盟を立ち上げ、その趣旨に賛同する衆・参国會議員144名で活動をしております。

国民の努力で新型コロナウイルス感染症もようやく抑制されてきておりますが、社会・経済は大きな影響を受けました。水産業においても消費動向の変動などにより大きな影響を受けています。これに加え、我が国が本格的な人口減少社会を迎えたこと

から新たな5カ年の「漁港漁場整備長期計画」がスタートしました。今般の長期計画には、3つの重点課題が整理されており、そのひとつとして「漁業による漁村の活性化」が盛り込まれております。この「漁業」に関しましては、設備等のハード支援だけでなく、ソフト面での支援も重要であります。漁村の活性化に向け、行政・民間の事業者・地元関係者などの多くの者が一体となって取り組み、その取組みを様々な視点から支援をしていくことにより、日本の漁業・漁村の魅力を内外に広く発信していくことが大切です。

8月末に農林水産省から財務省に令和5年度予算の概算要求書が提出されました。水産基盤整備予算の要求は860億円です。今般の予算要求には、地域として緊急性の高い諸施策が盛り込まれており、2年度目を迎えた漁港漁場整備長期計画を着実に実行し、水産政策の改革を推進していく上で重要な意味を持ちますので、予算獲得に向け、議員連盟といたしましても最大限の努力をして参る所存です。

結びに、本大会の成功と、我が国の漁港・漁場・漁村の発展、またご列席の皆様のご健勝を心から祈念し、私の祝辞といたします。

祝辞 全国漁業協同組合連合会 代表理事会長 坂本 雅信



第71回全国漁港漁場大会の開催にあたりまして、JFグループを代表して、一言お祝いを申し上げます。

シナによるウクライナ侵襲、また昨今の急激な円安進行など、社会情勢は目まぐるしく変化しております。漁業におきましても、燃油・資材価格の高騰や、海洋環境の変化に伴う不漁、赤潮や台風等の自然災害など、厳しい状況が続いております。

我々漁業者の使命は、安心で安全な国産水産物を提供し続けることにあります。将来にわたって漁業を続けていくためには、我々漁業者をはじめ、水産に携わる者の経営基盤をより強固なものにしていく必要がありますが、そのためには我々の生産基盤である「漁港」や「漁場」の機能強化が不可欠でございます。

このままでは、今年度から新たな5カ年の「漁港漁場整備長期計画」がスタートしております。今般の長期計画には、3つの重点課題が整理されており、そのひとつとして「漁業による漁村の活性化」が盛り込まれております。この「漁業」に関しましては、設備等のハード支援だけでなく、ソフト面での支援も重要であります。漁村の活性化に向け、行政・民間の事業者・地元関係者などの多くの者が一体となって取り組み、その取組みを様々な視点から支援をしていくことにより、日本の漁業・漁村の魅力を内外に広く発信していくことが大切です。

辞 祝

大日本水産会会長

白須 敏朗

代読：大日本水産
会常務理事
長岡 英典



全国の漁港・漁場関係者が集う第71回全国漁港漁場大会の開催、誠にありがとうございます。

また、漁港漁場漁村整備促進議員連盟の備藤征士郎会長、北海道を地盤とする国会議員の先生方、そして鈴木知事をはじめとする行政の方々をご来賓としてお迎えすると共に、全国より多数の関係の皆様が集る盛大なる開催を心から歓迎申し上げます。

今、水産行政においては、一昨年に改正された漁業法に則り、資源管理の仕組みの改良等、種々の施策が実行されるようになっています。

一方では、気候変動の中、依然主要魚種の不漁は続き、新型コロナウイルスによる需要の減退やウクライナ・ロシア紛争による市場の不安定等、業界を取り巻く状況は益々難しくなっております。

その中で、我々水産業界としては成長産業化を進め、国際競争力のある強い水産業を確立するために、供給面においては、「人・船・資源」の構造改革、需要面においては「国内需要および消費の拡大、そして輸出の更なる拡大」を推し進めることが肝要であります。

そこで、お集まりの漁港・漁場の関係の皆様におかれましては、今大会で提言される「成長産業化に向けた漁港の生産・流通機能強化や増養殖の推進」、「水産資源の回復や生産力強化」、「漁港等の強靱化、長寿命化」そして「漁業の振興と漁村活性化」を推進頂き、共に「水産日本の復活」を目指し、「大日本水産会」を携え、「国民に対する水産物の安定供給」、そして「水産業と漁村の維持・発展」のためご尽力を頂きたいと、念願いたす次第であります。

結びにあらためて、全国の漁港・漁場関係の皆様のご発展を心からの祈念し、全国大会に当たって、お集りのご挨拶とさせていただきます。

の ば

北海道知事

鈴木 直道



本日、第71回全国漁港漁場大会が、函館市において開催されることを喜び申し上げることに、全国各地から北海道にお越しいただいた皆様を心から歓迎申し上げます。

また、全国漁港漁場協会の橋本会長をはじめ、本大会の開催にご尽力された関係の皆様にも、深く敬意を表するとともに、お忙しい中ご来賓いただいた多くのご来賓の皆様から感謝申し上げます。

地である北海道は、太平洋、オホーツク海、日本海という特性の異なる3つの豊かな海に恵まれ、沿岸漁業や沖合底びき網漁業、養殖漁業など、様々な漁業が営まれており、全国への水揚げを誇るホタテガイ、スケトウダラ、サケ、サンマ、コンブをはじめ、漁業生産量は全国のおよそ四分の一を占めています。

その一方で、水産業を取り巻く情勢は、海洋環境の変化などによる生産の大幅な減少や、担い手の減少・高齢化の進行といった生産体制の脆弱化に加え、燃油等の資材高騰や消費者の魚離れなど、一層厳しさを増しています。

新たな「水産基本計画」及び「漁港漁場整備長期計画」がスタートする重要な年。本大会を契機として、全国の漁港や漁場の整備が着実に進められ、我が国の水産業の一層の発展につながることを期待申し上げます。

道としても、本道の水産業が将来にわたり魅力ある産業として発展できるよう、「第4期北海道水産業・漁村振興推進計画」のもと施設の衛生管理の高度化や長寿命化、水産資源の維持増大に向けた施設整備の計画的に進めているところであり、引き続き、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

今回ご来賓いただいた皆様には、北海道の多彩な秋の味覚や豊かな自然、世界文化遺産に登録されている「北海道・北東北の縄文遺跡群」など、様々な魅力を存分に堪能していただき、大会の思い出に加えていただきたいと思います。

また、来年9月には、38年ぶりとなる「全国豊かな海づくり大会」が、北海道で開催されます。豊かな海の恵みを、次世代に受け継いでいくことを目的とした大会であり、環境への関心が高まる中、ブルーカーボンなど、海が果たしている重要な役割を、多くの方々に知っていただく機会として、協力をお願いいたします。

結びに、全国漁港漁場協会のますますの発展、並びに、本日お集まりの皆様のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。歓迎の言葉といたします。

提案理由説明



提案理由説明する前理事長 三重県漁協 会長 櫻井 隆

ただいま、ご紹介を頂きまして、三重県漁港漁場協会会長を務めております、津市長の前業幸幸でございます。

本大会での提案理由の説明に先立ち、三重県と津市の現状に若干触れたいと存じます。

三重県は、南北に1000km余りにもおよぶ海岸線を有しており、大きく3つに分かれています。

また、伊勢湾・志摩半島・志摩海城では、カツオ、サバ、ブリ等が漁獲され、また、県内の魚類養殖業の中心地であり「伊勢まいたい」、「伊勢まはた」等のブランド化に取り組んでいます。

このため、豊かな海の再生に向けた藻場・干潟造成等の漁場整備や協業化による経営基盤の強化、水産物のブランド化による高付加価値化等に取り組んでいます。

一方、防災対策としましては、本県の多くの施設が伊勢湾台風を契機に築造され、約60年が経過し老朽化が進んでいます。

また、伊勢湾・志摩半島・志摩海城では、カツオ、サバ、ブリ等が漁獲され、また、県内の魚類養殖業の中心地であり「伊勢まいたい」、「伊勢まはた」等のブランド化に取り組んでいます。

このように、我が国の水産物に対する国民の信頼に応えること、水産物の輸出拡大を図っていくためには、沿岸環境の保全・再生や漁場整備などの資源回復対策と漁港の流通機能、衛生管理機能の高度化対策が務まっています。

開催地挨拶



挨拶する函館市の工藤壽樹市長

議長選出



議長に選出された北海道漁港漁場協会会長 高橋昌幸

提言朗読



提言を朗読する津枝北海道漁協女性部長 松美 友子

を始めとした大規模な地震・津波の発生が懸念されており、地球温暖化によるこれまで経験したことのない台風、集中豪雨等が多発するなど、自然災害が激甚化しております。漁村地域の防災・減災対策を早急に進めるとともに、老朽化した施設の長寿命化を急がなければなりません。

我々も、水産業の成長産業化に必要な漁港漁場整備の推進、防災・減災対策や長寿命化対策、或いはコロナ後を見据えた漁村の活性化などに意欲的に取り組んで参りますが、こうした取り組みを更に展開していくには、国全体の力強い支援が必要と存じます。

このため、令和5年度漁港・漁場・漁村整備予算を確保し、水産業の成長産業化に向けた漁港の生産・流通機能強化や増養殖の推進

一、海洋環境の変化に適合した漁場整備による水産資源の回復や生産力強化の推進

一、大規模災害に備えた漁港・漁村・海岸の強靱化対策、長寿命化対策の推進

一、地域資源・人材の活用や漁港の多様な利用による海産物の振興と漁村活性化の推進

を強く求めるものです。国、地方とも厳しい財政状況のある産業として次世代に継承し、豊かで安心して暮らせる漁村地域を形成して、水産業や漁村地域が日本の社会経済において果たしている重要な役割を引き続き果たせるようにするための喫緊の課題としてここに提案するものであります。皆様の満場のご賛同をお願いいたします。提案理由の説明を終ります。ありがとうございます。

夢と活力のある漁港漁村を次世代へつなぐ

意欲的な取り組みの現地報告

事例報告

津軽海峡マグロ女子会

「海をつなぐ女たちの風おこし」

発表者

青森側とりまとめ役
大間町・Yプロジェクト(株) 代表 島康子氏
北海道側とりまとめ役
松前町・温泉旅館 矢野 女将 工藤夏子氏



島氏(左)と工藤氏

第71回全国漁港漁場大会では、付議議案「令和5年度漁港・漁場・漁村・海岸整備予算の確保に関する件」に関連し、意欲的な取り組みの現地報告として3件の事例発表が行われた。

「海をつなぐ女たちの風おこし」と題して発表した津軽海峡マグロ女子会(マク女)。津軽海峡を取り囲むエリアに暮らすパワフルな女性たちが、津軽海峡のマグロのようにたくましく、しなやかに、にぎやかに、まっすぐにチャレンジしている。

現在の会員数は92名(青森49名、道南43名)。事例発表では青森側のとりまとめ役・島康子氏(大間町、Yプロジェクト代表)と、北海道新幹線開業時には自発的なキャラバンで盛り上げたり、駅弁の監修に取り組み注目を集めた。2016年からは「マク女のセイカソウ博覧会」を実施。津軽海峡圏をマグロのように回遊してもらおうと、地元資源を生かした体験プログラムやツアーを企画している。



津軽海峡を取り囲むエリアでまっすぐに挑戦する「マク女」

発表者

鳥取県境港市産業部
部長 柏木頼文氏

事例報告

鳥取県境漁港

「境漁港の高度衛生管理と観光の連携について」

「境漁港の高度衛生管理と観光の連携について」と題し、鳥取県境港市産業部の柏木頼文部長が水産と観光の連携をさらに深化させたまちづくりについて発表した。



高度衛生管理に整備された鳥取県境水産物卸売市場

全国有数の水揚げを誇る境漁港だが、市場施設の老朽化などにより高度衛生管理型市場の整備が進められ、今年8月に主要施設の整備が完了。市場上屋内に一般の人が見学、体験できる展示スペース「境港おさかなパーク」をオープンし、市場を学習の場や観光資源としても活用する。

さらに、「水木しげるロード」、「水木しげる記念館」のある観光エリアと水産物直売施設などのある漁港エリアをつなぐために、周遊バスや特徴的な道路標識の設置を進めているほか、水産資源を生かした観光誘客イベントを開催して水産と観光の連携に取り組んでいる。

今後は市場を活用した体験メニューの充実や、クルーズ客船で来港する外国人観光客の取り込み、新たな観光資源との連携などの取り組みを進めていくことで漁港エリアをさらなる観光資源とし、交流人口の拡大をめざす。

レセプションを開催

10月19日、午後5時から花びしホテルにおいて(公社)全国漁港漁場協会と北海道漁港協会との共催で歓迎レセプションが



阿部国雄北海道漁業協同組合連合会会長による乾杯

開催された。

最初、橋本牧(公社)主催者挨拶を行い、続いて地元函館市を代表して工藤壽樹函館市長が歓迎の挨拶を行った。引き続き田中郁也水産庁漁港漁場整備部長より来賓挨拶があり、来賓紹介の後、乾杯の音頭を阿部国雄北海道漁業協同組合連合会会長が行った。

乾杯の後、北海道の郷土芸である江差笛分、松前神楽が披露された。



挨拶する阿部北海道漁連会長

披露された。江差笛分は、海浜に生きる江差地方の風土に溶け込み、特色有る生活環境や、労働形態の境で幾多の変遷を経ながら育まれた民謡である。1963年から、江差町分全国大会が開催されており、北海道指し無形民俗文化財に指定されている。当日は、本業が漁師である大会チャンピオンの追分が披露され、会場はその本物の迫力に圧倒され、大いに盛り上がった。

また、松前神楽は、旧松前藩文化財に指定されており、獅子の舞では、会場の宴席を回り出席者の頭を噛むなどして会場は大いに盛り上がった。また、会場内では北海道産の自慢の海産物なども振舞われ、全国から集った多くの参加者による懇談が続いた。

「魚礁と一体的に機能する増殖礁設置場所としての活用」

事例報告

愛媛県志津見漁港

発表者

愛媛県今治市産業部
部長 若宮浩氏



愛媛県志津見漁港の「魚礁と一体的に機能する増殖礁設置場所としての活用」について、今治市産業部の若宮浩部長が発表した。

漁船隻数、漁獲量が減少している志津見漁港では、漁港地域の活力を取り戻すために水産資源の生産環境の整備が重要な課題となっていることから、増殖礁の整備に取り組んでいる。

志津見漁港内における増殖礁の設置場所の選定は▽地元漁協の共同漁業権設定区域内であること▽利用されていない泊地を有効利用することができると▽静穏が保たれており稚魚育成や藻場造成に適している▽モニタリングにかかる作



採用された増殖礁

業の軽量化が図れる▽海底勾配も緩やかであるため安定しやすい▽稚魚放流との相乗効果が期待できる——ことを条件に行った。

今年5月に水中ドローンを使用して実施したモニタリング調査では、ホンダワラ科のアカモクダの着生、メバルの稚魚も成魚、カワハギがみられた。増殖礁を設置した他地区ではキジハタも見られていることから、今後は放流との相乗効果への期待も大きい。

漁船海難遺児育英会が募金活動

全国漁港漁場大会では、「漁船海難遺児育英会」の募金活動が恒例となっている。

今大会においても(公財)漁船海難遺児育英会が大会会場において募金活動を行った。多くの大会参加者が募金活動に賛同し、「水色の羽」を胸に付け大会に臨んでいた。



募金活動の様子

第71回全国漁港漁場大会に祝電・メッセージを下された方々

(順不同、敬称略)

Table listing names of individuals who sent congratulatory messages, including members of the Diet and various industry representatives.

企業等展示、物販参加団体

- List of participating organizations and companies, including research institutes, construction firms, and industry associations.

(順不同)

古平漁港について説明を受ける様子



古平漁港を見学し、水産加工場と直売場で現場説明を受けた。(2協会60人が参加)

第71回全国漁港漁場大会来賓一覧

(順不同、敬称略)

出席された国会議員

Table listing Diet members who attended the conference, including members of the House of Representatives and the House of Councillors.

代理の方が出席された国会議員

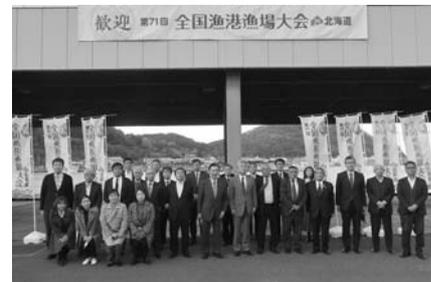
Table listing Diet members who were represented by their secretaries at the conference.

出席された来賓(行政機関・団体等)

Table listing guests from government agencies and organizations, including officials from the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries and various industry associations.

出席された来賓(北海道)

Table listing guests from Hokkaido, including officials from the Hokkaido Government and local industry associations.



古平漁港を視察した一行

北海道漁港協会は、第71回全国漁港漁場大会の前日と翌日の10月18日と20日に北海道島内5カ所... (函館市) 船入調防波堤は、近代港湾整備の父と言われた廣井勇博士の設計に基づき、明治29年から北海道の港湾工事として、初めて国費助成を投じて建設された。港湾修築の先駆的な構造物である。この防波堤は、歴史的土木構造物として平成16年度に土木学会選奨土木遺産に認定されている。

二、北斗漁港(上磯地区) 船揚場背後の漁港施設の有効利用と地域産業の活性化を目指して上磯郡漁業協同組合が国の承認を受け、イトインスペース型の直販施設「北斗フィッシュヤリ」を建設。地元産のカキや海産物の納税を提供している。

三、鹿部漁港(鹿部町) 水産物の生産・流通拠点として、陸揚げから出荷までの衛生的で安全かつ効率的な水産物の供給を目指し、屋根付き岸壁などの整備を行っている。登別漁港の見学といふり中央漁協で現場説明を受けた。(10協会240人が参加)

五、古平漁港(古平町) 屋根付き岸壁などの整備を行っている衛生的な漁港。東しゃたん漁業協同組合では「東しゃたん直売場」を加工場と一体で整備し、新鮮品や水産加工品を販売している。古平漁港を見学し、水産加工場と直売場で現場説明を受けた。(2協会60人が参加)

第71回全国漁港漁場大会で漁港視察を実施

北海道漁港協会は、第71回全国漁港漁場大会の前日と翌日の10月18日と20日に北海道島内5カ所... (函館市) 船入調防波堤は、近代港湾整備の父と言われた廣井勇博士の設計に基づき、明治29年から北海道の港湾工事として、初めて国費助成を投じて建設された。港湾修築の先駆的な構造物である。この防波堤は、歴史的土木構造物として平成16年度に土木学会選奨土木遺産に認定されている。

二、北斗漁港(上磯地区) 船揚場背後の漁港施設の有効利用と地域産業の活性化を目指して上磯郡漁業協同組合が国の承認を受け、イトインスペース型の直販施設「北斗フィッシュヤリ」を建設。地元産のカキや海産物の納税を提供している。

三、鹿部漁港(鹿部町) 水産物の生産・流通拠点として、陸揚げから出荷までの衛生的で安全かつ効率的な水産物の供給を目指し、屋根付き岸壁などの整備を行っている。登別漁港の見学といふり中央漁協で現場説明を受けた。(10協会240人が参加)

五、古平漁港(古平町) 屋根付き岸壁などの整備を行っている衛生的な漁港。東しゃたん漁業協同組合では「東しゃたん直売場」を加工場と一体で整備し、新鮮品や水産加工品を販売している。古平漁港を見学し、水産加工場と直売場で現場説明を受けた。(2協会60人が参加)

2022 漁港漁場漁村海岸写真コンクール

入賞作品 決定!

(公社)全国漁港漁場協会と全国漁港海岸防災協会の共催、(財)漁港漁場漁村総合研究所と(一社)水産土木建設技術センターの協賛、水産庁後援による2022漁港漁場漁村海岸写真コンクールの入賞作品が、第71回全国漁港漁場大会の場で発表された。

同コンクールの作品審査は9月1日に行われ、入賞作品は、パンフレットにまとめられて大会参加者に配布された。

入賞作品は、特選1席(農林水産大臣賞)1点、特選2席(水産庁長官賞)1点、特選3席(全国漁港漁場協会会長賞、全国漁港海岸防災協会会長賞、漁港漁場漁村総合研究所理事長賞、水産土木建設技術センター理事長賞)各1点、入選5点、佳作9点で、入賞者は別表の通り。

なお、入賞作品は全国漁港漁場協会のホームページに掲載しています。

特選1席

農林水産大臣賞



特選2席

水産庁長官賞



特選3席

全国漁港漁場協会会長賞



特選3席

全国漁港海岸防災協会会長賞



特選3席

漁港漁場漁村総合研究所理事長賞



特選3席

水産土木建設技術センター理事長賞



2022 漁港漁場漁村海岸写真コンクール 入賞者一覧

入賞	賞名	題名	氏名
特選1席	農林水産大臣賞	夫婦船	松田 裕次(宮崎県延岡市)
特選2席	水産庁長官賞	2歳のお手伝い	山田 香里(北海道雄武町)
特選3席	(公社)全国漁港漁場協会会長賞	体験乗船	山崎 俊泰(静岡県掛川市)
特選3席	全国漁港海岸防災協会会長賞	ほだしのマラソン大会	山中 正光(高知県高知市)
特選3席	(一財)漁港漁場漁村総合研究所理事長賞	古式捕鯨再現	三戸 律子(山口県宇部市)
特選3席	(一社)水産土木建設技術センター理事長賞	もうひと臨ん張り	長田 潤(北海道函館市)
入選		あれが見えるころ	白川部 慶太(北海道帯広市)
入選		雷日	白木 勇治(京都府福知山市)
入選		絆スターマイン	松谷 秀信(宮城県石巻市)
入選		初かつお	大山 浩樹(三重県志摩市)
入選		暇むいてます	カマタニ ヒサト(岩手県巻代村)
佳作		海と青春	門林 泰志郎(福島県いわき市)
佳作		出漁のとき	岡本 聖(京都府八幡市)
佳作		自然の漁港	伊藤 良一(神奈川県平塚市)
佳作		海上獅子踊り	後藤 博(宮城県塩釜市)
佳作		-12℃の朝	上野 一豊(青森県八戸市)
佳作		シュノーケル始めました	市川 えり菜(東京都品川区)
佳作		たこつぼ漁	佐々木 裕美(兵庫県神戸市)
佳作		「海の幸を求めて」	川崎 信義(長崎県佐世保市)
佳作		ろこぎ競争	中村 昭夫(三重県四日市市)

第20回 全国漁港整備技術研究発表会開く

水産庁 岩手県 (公社)全国漁港漁場協会



岩手県盛岡市で

技術研究発表会の様子

水産庁と岩手県、(公)全国漁港漁場協会は、第20回全国漁港整備技術研究発表会を11月9日、岩手県盛岡市アイーナいわて県民情報交流センターの小田島組ホールで開催した。翌10日は、大船渡漁港や田老漁港などを見学した。

同発表会は昭和31年から平成13年まで「全国漁港建設技術研究発表会」として46回開催され、平成14年か

第28回通常総会を特定第三種漁港市長協議会が主催し、岩手大・南教授が基調講演を行う。

第28回通常総会を開催

特定第三種漁港市長協議会が主催し、岩手大・南教授が基調講演を行う。冒頭、会長の菅原茂氣仙沼市長が主催者挨拶、田中郁也水産庁漁港漁場整備部長、橋本牧(公社)全国漁港漁場協会会長が挨拶を行った。

その後、地元漁船団による海上パレードが行われ、明石港の護岸が観望される両陸の前で様々な旗を披露、統一した旗を掲げた。

農水省・財務省に要請

第71回全国漁港漁場大会の提言携え



勝俣農水副大臣(中央左)に提言書を手渡した



財務省では河川健児主計官(中央左)に面会した

第71回全国漁港漁場大会(10月に北海道函館市で開催)で「令和5年度第1号議案(令和3年度事業報告・収支決算について)」、第2号議案(令和4年度事業計画(案)・収支予算(案))について、コロナの影響で総会を令和3年度は開催していないこと、令和4年度はオンラインでの開催を予定したことで、両年を交えた請求書として事務局に提出した。事務局が説明、監事の越川信一銚子市長が監事報告を行った。

第3号議案(第29回通常総会開催場所について)では次回通常総会を三浦市において開催する提案があった。

第4号議案(役員選任については、会長を三浦市の吉田英男市長、副会長を焼津市の中野弘道市長、濱田市の久保田草市市長、監事を銚子市の越川信一市長と銚子市の前田祝成市長とする案)が事務局より提示され、承認された。

その他、全国水産都市三団体連絡協議会に関する報告事項として、7月22日の総会後に会長(他)と橋本(公社)全国漁港漁場協会会長、農林水産省の幹部、財務省及び国会議員に対して要望書を手渡す要請活動を行ったこと、市長会から齋藤正石市長、中村元太市長、岩手県水産部長が参加したことについて報告があった。

令和5年度の会長については、持ち回りで全国市議会議長会特定第三種漁港協議会会長となることなどが伝えられた。

議事終了後、水産庁の田中部長が「新たな漁港整備中期計画と海業の推進について」と題した講演を行った。

出席者は市長本人大出席4名(仙沼市、銚子市、三浦市、境港市)、代理出席8名(五苓市、塩竈市、焼津市、浜田市、下関市、福岡市、長崎市、八戸市)。

第41回 全国豊かな海づくり大会

兵庫県で開催 天皇、皇后両陛下がご臨席



式典の様子(代表撮影)

第41回全国豊かな海づくり大会が11月12日(土)と13日(日)に兵庫県明石市で開催され、天皇、皇后両陛下がご臨席の行事が行われた。テーマは「広げよう 豊かな海づくり」。

主催は豊かな海づくり大会推進委員会。第41回全国豊かな海づくり大会は、兵庫県水産資源の保護・管理と海や湖沼・河川の環境保全の大切さを広く国民に訴えることと、ついでに豊かな海づくり大会の推進を通じ、水産業の振興と発展を図ることを目的として、豊かな海づくり大会推進委員会との

共催により、都道府県ごとに毎年各地で開催されている。兵庫県での開催は昭和57年の第2回大会以来であり、全国初の2度目の開催地となった。

式典では天皇陛下が「豊かな海づくり大会」をテーマとして、次世代に引き継いでいこうと、私たちに課せられた使命。この大会を機に、海や漁業への理解と関心が深まり、豊かな海づくりの輪が兵庫県から全国に広がることを願うと、また、漁業環境の保全や資源管理、栽培漁業など豊かな海づくりに係る活動に功績のあった団体・個人の表彰のほか、水

波や津波に対する防災・減災対策に重点的に取り組んでいるほか、水産資源の回復・増大を目指し、藻場再生の取組やマリイカなど新たな種類を対象とした漁港整備にも積極的に取り組んでいることとして紹介した。

基調講演では岩手大・南教授が「東日本大震災からの復興に向けた『まらづく』」と題して話した。続いて、一般発表が行われた。

12月に調査研究成果発表会

漁村総合研究所 一般財団法人漁村総合研究所は、調査研究成果発表会を12月5日(月)午前10時、都千代田区の全電通労働会館(全電通ホール)で開催する。テーマは「海業」。

第2部では東京海洋大の学副学長 妻小波氏による基調講演「海業のこれまでも、今後の展開の可能性について」と、上級研究員による基調講演、パネルディスカッションを行う。

会場参加の定員は100名。WEB配信の参加も可能。漁村総合研究所のホームページ(<http://www.jifc.or.jp/?p=1334>)で詳細を確認できる。

水産庁、各都道府県漁港漁場協会会長、全国漁業協同組合連合会会長の連名で政府及び各都道府県の地選出国会議員等に働きかけ、提言事項の実現を図ることを決議。今年度の幹事協会を中心とする各都道府県漁港漁場協会、同新近也副会長(網走漁協組合長)、静岡県漁港漁場協会、鈴木精則会長(伊豆漁協)、事務兼取次支所運営委員、静岡県漁港漁場協会、寺沢村昇経済部漁港振興課長、同村松隆弘経済部長、同佐藤常務(宮城県水産庁水産部長)、同佐藤常務(宮城県水産庁水産部長)、同佐藤常務(宮城県水産庁水産部長)、同佐藤常務(宮城県水産庁水産部長)。

同新近也副会長(網走漁協組合長)、静岡県漁港漁場協会、鈴木精則会長(伊豆漁協)、事務兼取次支所運営委員、静岡県漁港漁場協会、寺沢村昇経済部漁港振興課長、同村松隆弘経済部長、同佐藤常務(宮城県水産庁水産部長)、同佐藤常務(宮城県水産庁水産部長)。